

「被害者のつらさ覚え続けて」

JR事故負傷者 支援のNPO 二井さん県警察学校で講演

JR福知山線脱線事故の負傷者を支援するNPO法人「市民事務局かわにし」の事務局長・三井ハルコさん(53)が11日、芦屋市朝日ヶ丘町の県警察学校で、被害者の悲しみや苦しみなどについて語った。被害者支援担当の警察官や初任科生ら計約450人が「悩みやつらさを抱えて生きている人がいる」と覚え続けることが事故の風化を防ぐとの訴えに、耳を傾けた。

2両目に乗った次女が重傷を負った三井さんは、事故の経緯や背景などについて

て、スライドや映像などを使って説明。「支援が必要

な人たちに『どんな闇夜でも、灯りがあるかわかれば歩いていける』と思われる存在になろう」との考えから、事故の当事者と当事者でない人のつながりを広げ

立花北小2年生

YCなど訪問

尼崎で町たんけん

北小の2年生約60人が11日、「町たんけん」と銘打って校区内の商店や公園な

どを回り、話を聞いて地元について学んだ。子どもたちは、保護者と一緒に2〜5人ずつのグループに分かれ、地域を約1時間半かけて歩いた。同市上ノ島町の読売センター(YC)上之島には、児童計

ていこうとする法人の活動も紹介した。初任科の渡辺隆浩さん(34)は「事故に遭った人たちの悲しみの大きさは想像以上だった。警察官としてできることを尽くしたい」と話した。